



ゆるゆる言葉集め
シェア活 2018年
11月版

peopleperson

まえがき

昔から妄想癖があり、自作の仮定のストーリー内で人と会話をする（独り言を言いながら）のが常でした。

最近、人はどんなことに心動かされ、面白さを感じるのか？どんな方向に考えを巡らせているのか？そのアイデアを、どんなふうに表示するのか？に興味を持ち、現在、仕事の傍らイベントをいろいろ開催しています。その中の一つの“オモロい言葉探しシェア活”は、皆でシェアして楽しむのも良しですが、そのじわじわ来る面白さは、一人遊びにも最適です。イベント内での口頭でのシェアとの違いはありますが、書いたものを読むものなかなかの面白さがあります。

以前、“この、リンス泥棒！変な寝言が忘れられない”という本に出逢って衝撃を受けたことを思い出し、こういう形にして世に出したい！と思い、思い切って行動に移してみました。

この人の脳みその中で、こんな動きがあるんだな～、とニヤリとしていただけますと幸いです。

☆ゆるゆる言葉集めルール☆

とにかく自分が面白い！！と思う言葉を集めます。造語でも良い。英語でも良いが、日本人になじみのある単語の方がベター。単語だけでなく、ことわざや表現、フレーズなどもOK。人が不快に思うような言葉でなければ何でも良い。（この本の言葉コレクションは、2018年11月現在の話題です）

人にとって面白いかどうかは関係なく、自分が面白いと感じていることが基準。どんなふうに感じるとか、その言葉の背景が面白いとか、シェアする感想は何でもOK。単純な笑いだけでなく、知的な内容など、いろんな方向からの面白さを対象とします。

☆ヤマアラシのジレンマ

→寓話(ぐうわ)。寒い夜に、2匹のヤマアラシが体をぴったりとくっつけて温まろうとしたところ、お互いに自分のトゲが相手を傷つけてしまったため、相手を傷つけないようくっついたり離れたりして、ちょうど良い距離感を探ったという話です。

歳を重ねてきて人間関係で悩む自分に重ねて、内容自体深いなあと思うけど、言葉の収まりが良くて響きがきれいでしっくりくるところが好き。

☆柄と柄（がらとえ）

→がらとえ。つかとも読む。マンションコンシェルジュとして働いており、入居者さんから汚れを指摘されて掃除するべくほうきを手を取った時にふと思った。このほうきの柄（え）に柄（がら）があって、自分がその柄（がら）について語ろうとしたとして。文字で書くと“ほうきの柄”となり、（え）なのか（がら）なのかどちらを表すのか分からないなと思い、面白いと思った。

☆大人の事情

→最近お気に入りの言葉。この一言を聞くと、どんなグレーな事情があるんだろうと物凄い想像力を働かせてしまう。スケールの大きさもピンからキリで、相手の想像に自由に任せるのが面白い。誰も傷つけず、これ以上探らせないという強さもある言葉で、ざっくりといろんなケースに使えて便利でもある。

☆高級外車を乗り回す

→高級外車に乗ると言った時と、高級外車を乗り回す、と言った時の受け手の印象の差がすごい。悪意の感じられる言葉で、その分か

りやすさが笑えてくる。“回す”を付ける場合は否定的なニュアンスが生まれるのかな。

例) 連れ回す、振り回す、触れ回る、歩き・走り回る

☆ハゲ散らかす

→高級外車を乗り回すと同様、悪意があって面白い。同じ活用法な気がする言葉。

☆He lost someone special

→セリフ。昔、本気で好きになり、この人と結婚したい、この人の子供が欲しいとまで思った人がいた。その人から受けた扱いや、別れ方が酷くダメージを受けるものだった。泣きながら友人に話を聞いてもらった時、どうしたのかと聞かれたので、"I got dumped."

(彼に捨てられたの)と言ったら、"You weren't dumped. He lost someone special" (君は捨てられたんじゃない、彼が特別な人を失っただけだ) と言ってくれた。

ものごとを表現する時、私からの目線、彼からの目線の他に、第三者からの目線もある。こう表現することもできるんだ、と思ったのと、ボロボロで自分が無価値だと感じていた時に、相手が君の価値を分かっているだけだ、と言い切ってくれて、本当に救われた。

☆賢者タツヒコ

→加齢とか脳疲労のせいなのか、あの一、それ、あれ、が増えている。思い出し間違いもいろいろあって、連続テレビドラマ“勇者ヨシヒコ”の名前を、“賢者タツヒコ”ときれいに間違えて笑えた。

☆さるのこしかけ

→同様に、“悟空の気持ち”という話題の頭皮

マッサージ店の名前を、ちびまるこちゃんの作者、さくらももこさんのエッセイ集のタイトル“さるのこしかけ”と間違えた。どうやら、“猿繫がり”で、そういううろ覚えをしたらしい。当然、ググっても正式名称になかなか辿り着けなかった。

☆インテリジェンスバー

→同様に、アップルストアのサポートカウンターの“ジーニアスバー”と間違えた。

☆マシンガンマリッジ

→同様に、英語で“できちゃった結婚”の“ショットガンマリッジ”を間違えた。ショットガンとマシンガンでは弾の出方が全く変わるので、できちゃった結婚の本来の意を考えると大幅にニュアンスが変わってしまい、自分で吹出した。うろ覚えの場合、頭の中で既知の他のものの名前に変換されてしまうことがあり、酷いと原形をとどめておらず、面白い。

☆カモネギ

→鴨鍋にするのに、鴨がネギまで背負ってきてくれればますます好都合だ、という意味合いから、獲物がまんまとやってきて、好都合なことを意味する。鴨がネギを背負ってくるところを想像するのが面白いし、そんな面白い発想から単語一語が生まれたというのも面白い。

同じような表現として、ブロッコリーがマヨネーズを抱えて、とか？と発表してみたが、反応が思ったより芳しくなかったので（笑）、誰か面白いのを思いついたら是非共有してください！と締めました笑。

☆回送

→電車やバス、タクシーに回送と表示されるが、何となく違和感があった。英語でout of service や not in serviceと表示されるのを見た時に、理由が分かった。他の用途では使うことがない言葉だと気づき、顧客向けの言葉でなく、業界内の言葉がそのまま浸透して（させて）使われていると感じたからだった。

例えばスーパーに貼り紙がしてあって、“本日終日棚卸し”とだけ書いてあったら、だから？棚卸しは社内で使われる用語で客向けの案内じゃないでしょ、“本日終日棚卸しのため、休業”と書くべきでしょ、と思うのと同じ。

この間この話をある人にしたところ、ある時同じことを思った！と興奮気味に話して下さって、とあるバスに、“回送”“ご乗車いただけません、ごめんなさい”と書いてあって何て丁寧〜と思った、と仰っていた。

☆矛盾

→故事が語源。昔、矛と盾を売り歩く商人が

おり、矛を売る時は「この矛はとても鋭いので、どんな堅い盾でも突き通す」と言い、盾を売る時は「この盾はとても堅いので、どんな鋭い矛でも突き通せない」と言った。それを聞いた人が、ではその矛でその盾を突いたらどうなるのか？と聞いた時、その商人は言葉に詰まってしまった、という話。

渋いと感じて一番好きな熟語。語源が、こんなに納得がいてぐうの音も出ないという寓話で、矛と盾がそのまま言葉に入って、その二文字でこの言葉が構成されているのが本当に面白い。

☆貴様

「貴様」という言葉の由来は古く、室町時代の末期には既に使われており、主に男性が目上の人に対して呼ぶ敬称で、武家が書く手紙などで使われていた言葉だったらしい。次第に日常会話でも使われるようになったのは江戸時代の前半からで、その時も相手に高い敬意を示す呼び方として定着していたとのこと。

「貴様」は、文字通り「貴方様」という丁寧語だったそう。それが江戸時代中期以降になり軽い敬称として、そして後期にもなると対等の立場の者や目下の者に対して罵りの言葉としても使われるようになり、今に至るらしい。

(参考) <https://kamome-times.com/archives/2518.html>

ある銀行からのメールの文中で、“貴様の口座に”と書かれていて、このメールは怪しいと気づいた。一語でバレてしまう。敬語は難しい。詐欺グループもあと一步苦笑。

他の参加者が雑談中にこの話を出したのですが、私の面白言葉リストの中に含まれており、

次回発表用の作品潰しとなりました笑。

☆ス

→鍼灸院で施術を受けていた時のこと。カーテンを隔てて隣に、体育会系の大学生らしき患者さんが治療を受けていた。施術者の質問に対して、「って言ってたんスよね〜」「いや全然痛くないス。大丈夫ス」「ホントやっ
てられないスよ〜」などと答えていて、話の間に“ス”がちりばめられているのを聞くうちに、スしか入ってこなくなり、吹出してしまった。絶妙にくだける、このスの影響力。

面白すぎるとシェアしたところ、「餃子にかけるのは醤油と？」という質問をしたら、「酢ス」と答えるのか？という脱線があり、爆笑しました。

☆人妻≠人夫

→（他）人の妻、というだけの意味のはずなのに、人がつくだけで無駄にいやらしくなるなど笑える。読んでもそうだが、耳から入った場合も、その言葉が聞こえただけでそういう方向の話しか思い浮かばなくなる。

また、対義語は？と考えてみたら、人夫だな、存在しないなと思ったが、労働者という意味で存在するなと思い直した。しかし全然意味が違うのでこれも面白いなと思った。

確かに、“人妻”を使う場面は限られていて、例えば、“客観的に（他）人の妻”という意味で、「いやー、うちの妻は人妻と比べて家事が苦手で…」というふうにも使わない。相手をどうしようという時にしか使わない、と大笑いになりました。その流れで、より突っ込んだ“団地妻”という言葉も飛び出し、すごい妄想からでき

あがった言葉だよねと盛り上がりました。